



大井町東学頭  
あらい みゆ  
新井 美悠さん (19歳)

□プロフィール

恵那高等学校出身で、名古屋造形大学の1年生(3月8日時点)。新感覚からすみ「ぶちえある®」の開発メンバーの一人。夢は、アナログとデジタルを融合させた作品を創る、クリエイターになること。



▲令和5年5月、ぶちえある完成報告(中央:新井さん)



◀新感覚からすみ「ぶちえある®」公式Instagram

米粉と砂糖の素朴な甘さが特徴的な「からすみ」。昔ながらの故郷の味に、若い感覚を取り入れ開発されたのが新感覚からすみ「ぶちえある®」だ。

開発メンバーは、新井美悠さんと、当時恵那高等学校2年生だった生徒2人。2人が、授業の一環で「100年後まで残るからすみ」を作りたいとプロジェクトを開始し、3年生だった新井さんをメンバーに加えた。3人は、何度も話し合いや試作を繰り返して、カレーチーズ味やクリームチーズなっつ味などの、新しいからすみを作り上げた。「自分のアイデアが形になることにワクワクした」と振り返る。名前は、小さいという意味を持つ「ぶち」と、ギリシャ語で春を意味する「えある」を組み合わせた「ぶちえある」とした。

令和4年12月、商品化に近付けるために恵那ビジネスコンテストに応募し、グランプリを受賞。そして翌年5月、恵那川上屋の協力

## からすみで地域活性化 新感覚からすみ「ぶちえある®」を開発

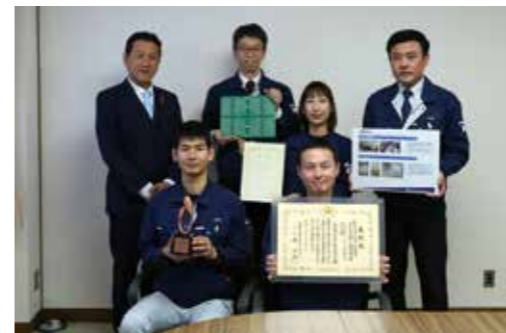
で、ぶちえあるを商品化させた。その後3年生となった2人は、受験勉強に励むために新井さんへ思いを託してプロジェクトを卒業した。新井さんは「もっとうからすみの文化を広めたい」と活動続けることを決意。現在も学業と両立させながら、市内の菓子屋と一緒に商品開発をしている。3月までコラボレーションしていたかみや菓子舗(岩村町)とは「いちごみるく味」のからすみを販売した。他にも、得意なデザインを生かし、Instagramで新商品などの情報発信をしたり、マーケティングの勉強をしたり、えなえーるで講座を開くため講師登録をしたりと、活動を広げている。「恵那が大好きな企業やアイデアを形にしたい人など、私と同じ思いの人がいれば、一緒に活動したい」とはにかむ。「常時販売を目標に、からすみで恵那を盛り上げていきたい」と話す新井さんは、輝く未来へ一歩ずつ歩みを進めている。



その他の話題もウェブサイトに満載

2/7

東海神栄電子工業株式会社が  
省エネ大賞を受賞



東海神栄電子工業株式会社(大井町)が、省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。同賞は、企業や自治体などの優れた省エネ推進の事例を表彰するもの。同社は、工場内の照明のLED化や省エネ診断による改善実施など、従業員全員で活動したことが評価されました。

2/6

能登半島地震の被災地へ  
義援金を送る



令和6年能登半島地震で被災された方を支援するため、恵那北中学校生徒会は全校生徒や保護者、地域の人から寄せられた義援金135,215円を、日本赤十字社岐阜県支部に贈りました。生徒会長の大江文徳さんは「少しでも力になりたい」と活動への思いを話しました。

2/27

有給インターンシップ生が  
市役所の仕事を体験



市では、市政に対する理解を深めてもらうため、有給でインターンシップ生を受け入れています。約1カ月間、大学生15人が市職員として勤務しました。初めて窓口で接客をした京都橘大学3年生の各務歩奈美さんは「笑顔でゆっくり話すように心がけました」と話しました。

2/27

恵那での交流が原点  
県ポーランド交流協会が設立



ポーランド共和国との友好関係を構築、発展させることを目的に、県ポーランド交流協会が設立されました。会長に就任した市観光協会会長の阿部伸一郎氏は「文化、スポーツなどから経済に結び付け、実のある交流をしていきたい」と話しました。

3/12

先人、佐藤一斎の言葉を継承  
一斎かるたを製作



岩邑中学校の3年生47人が「中学生が選んだ一斎先生の言葉かるた」を完成させました。言志四録の言葉から、現代文と原文にふさわしい挿絵を考えて取り札を製作。実行委員の瀬戸あゆみさんは「小さい子から大人までに伝わるかるたを作りました」と完成を報告しました。

3/10

頼れる防災リーダーに  
市少年消防隊の修了式



市少年消防隊の修了式が開催され、6年生26人が2年間の活動を修了しました。活動に無欠席だった隊員10人には、皆勤賞も授与されました。市少年消防隊の隊長を務めた鈴木誠也くんは「活動を通して火の怖さと命の尊さを学びました」と振り返りました。